

東京・銀座における地域イメージ形成と都市環境デザインの歴史・実践 に関する研究

武蔵野大学工学部 助教 宮下 貴裕

（研究計画ないし研究手法の概略）

本研究の目的は、戦後の東京・銀座における「銀座らしい」空間のイメージと空間デザイン手法の変遷を明らかにし、現在の都市環境を分析した上で、地域の特性を活かした今後の開発と空間の利活用の新たな方向性を見出すことである。戦時中の空襲で大きな被害を受けた銀座は戦後を迎えるとビル建設ラッシュに沸き、様々な開発主体によって個性豊かな建築が生み出されてきた。一方地元側も良好な都市環境を求め、地元の商店街組織・銀座通連合会が中心となって地区計画「銀座ルール」の策定（1998年）などに取り組んできた。現在では開発が行われる際、事前に地元組織である銀座デザイン協議会（2006年発足）と開発事業者が計画内容を協議・調整する枠組みが構築されている。しかしそれ以前において、地元主体と開発主体がどのような「銀座らしさ」を見出し、空間デザインへと反映しようしてきたのかは把握されておらず、現在の両者の協議において議論される地域イメージは、歴史的な知見の上に立脚したものとは言い難い。また人口減少・低成長時代においては新規開発のみならず既存空間活用の重要性も高まると考えられ、これまでの都市環境ストックを活かした空間デザインのあり方を検討すべき時期を迎えている。そこで本研究では、戦後から現在に至るまでの開発主体と地元主体の双方によって見出されてきた銀座の地域イメージや空間デザインの手法を把握する。そしてその結果としての現状を踏まえ、既存ストックを活用した「銀座らしい」空間デザインの方向性を提案する。

（実験調査によって得られた新しい知見）

1. 開発主体によって見出されてきた地域イメージと空間デザイン手法

1-1. 『新建築』誌に紹介された建築物とそれらの特徴

開発主体の動きについては、専門雑誌である『新建築』に掲載された建築紹介記事に注目し、そこに記された各種データの傾向と設計者の問題意識・設計意図などから、各建築の設計において設計者が見出した銀座の地域イメージとその空間化手法を明らかにする。

① 設計者の業種と建築物の用途

戦後の『新建築』誌上で紹介された建築物のうち、銀座デザイン協議会が創設される2006年以前に竣工したものは48件にのぼる（表1）。設計者の業種の内訳はアトリエ系設計事務所が31件、組織系設計事務所が6件、ゼネコンが11件とアトリエ系設計事務所が最も多い。そして日本を代表する商業地でありながら設計者のほとんどが日本国籍の建築家・企業であり、外国籍の建築家による設計は4件にとどまっている。用途の内訳では商業用途を含むものが33件と最も多かった。

② ファサードのデザイン

街並みに大きな影響を与えるファサードに関して、まず壁面形状の類型化を行った。「平

表1 銀座に竣工した建築物のうち『新建築』誌に掲載されたものの一覧

| 掲載号 | 竣工年 | 名称 | 新築/改修 | 設計 | 用途 | 高さ (広告物舎 (m)) | 地上 階数 | 地下 階数 | 建築 面積 (㎡) | ファサード | | | | | 前面 空地 | 外構・1階床面 | 銀座に 関する 記述 |
|---------|------|-----------------|-------|-----------------|----------|---------------------|----------|----------|-----------------|----------|-------|----------|-----------|--------------|----------|------------|------------------|
| | | | | | | | | | | 壁面 形状 | パターン | 看板 広告 | 1階 開口部 | ショー ウィンドウ | | | |
| 1947.3 | 1947 | 銀座風月堂 | 新築 | 村田政真 | 商業 | | 1 | | | 複合 | 全面ガラス | 壁面 | 全体 | ○ | | 木材 | |
| 1948.9 | 1948 | 東洋電機工業事務所 | 新築 | 海老原一郎 | 事務 | | 2 | | | 平面 | 横強調 | 壁面 | 全体 | | | 木材 | |
| 1948.9 | 1948 | 銀座・山本 | 改修 | 広瀬謙二 | 商業 | | 2 | | | 平面 | 横強調 | 壁面 | 全体 | ○ | | 花崗岩 | |
| 1952.1 | 1951 | オリンピックビルディング | 新築 | 竹中工務店 | 商業 | 28.6 | 7 | 1 | 478.1 | 平面 | 横強調 | 袖 | 全体 | ○ | | 大理石 | |
| 1952.4 | 1952 | 大和ビルディング | 新築 | 清水建設 | 商業・事務 | 19.6 | 5 | 1 | 191.4 | 平面 | 横強調 | 壁面 | 一部 | | | 大理石 | |
| 1952.5 | 1952 | きゅんえな | 改修 | 田中四郎 | 商業 | | 1 | | | 平面 | 全面ガラス | 壁面 | 全体 | | | ヒノキ | |
| 1952.6 | 1952 | 銀1ストア | 新築 | 後藤一雄 | 商業 | | 1 | | | 凹凸 | 横強調 | 壁面 | 一部 | ○ | ○ | | |
| 1953.12 | 1953 | 銀座御木本真珠店 | 新築 | 戸田組 | 商業 | | 2 | | 173.4 | 平面 | 全面ガラス | 壁面 | 一部 | ○ | | 御影石 | ○ |
| 1961.3 | 1961 | 東芝銀座ビル | 新築 | 松田平田設計 | 商業・文化 | | 8 | 2 | 381.3 | 平面 | 横強調 | 壁面・袖 | 全体 | | | 大理石 | |
| 1962.11 | 1962 | 養生堂会館 | 新築 | 谷口吉郎 | 商業 | | 9 | 1 | 320.8 | 平面 | 横強調 | 壁面 | 全体 | ○ | | 大理石 | ○ |
| 1963.3 | 1963 | 三菱ドリームセンター | 新築 | 日建設計(林昌二) | 商業・事務 | 31(48) | 9 | 2 | 221 | 平面 | 全面ガラス | 壁面 | 全体 | | ○ | 花崗岩 | |
| 1963.9 | 1963 | リッカー会館 | 新築 | 鹿島建設 | 事務 | | 9 | 3 | 888.3 | 平面 | 全面ガラス | 屋上 | 全体 | ○ | | | ○ |
| 1965.1 | 1965 | 大倉本館 | 新築 | 大成建設 | 事務 | | 31 | 9 | 407.2 | 平面 | 横強調 | 袖 | 全体 | | | | |
| 1968.2 | 1967 | 静岡新聞・静岡放送東京支社 | 新築 | 丹下健三 | 事務 | | 57 | 12 | 1 | 162 | 複合 | 全面ガラス | 壁面 | 一部 | | | ○ |
| 1970.11 | 1970 | サッポロ銀座ビル | 新築 | 大成建設 | 商業・事務 | 34.9(41.5) | 10 | 2 | 398 | 平面 | 全面ガラス | 壁面 | 全体 | | | 御影石・絨毯 | ○ |
| 1971.11 | 1971 | 銀座カリオカビル | 新築 | 倉俣史朗 | 商業・事務 | | 7 | 1 | | 平面 | 横強調 | 壁面 | 一部 | | | | |
| 1974.3 | 1974 | Leeビル | 新築 | K・M・G建築事務所 | 商業 | | 8 | 1 | | 曲面 | 全面ガラス | 壁面 | 一部 | | | | |
| 1974.7 | 1974 | 天宮堂ビル | 新築 | 日建設計(林昌二) | 商業 | | | | | 平面 | 横強調 | 壁面 | 全体 | ○ | | | |
| 1975.5 | 1975 | 養生堂ザ・ギンザ | 新築 | 芦原義信 | 商業 | 31(35.3) | 8 | 2 | 370.6 | 平面 | 横強調 | 壁面 | 全体 | | | | ○ |
| 1985.1 | 1976 | 吉兆 東京 (第1期) | 新築 | 吉田五十八 | 商業 | | 3 | 1 | | 平面 | その他 | 壁面 | 一部 | | | | |
| 1978.3 | 1977 | 銀座くノや | 新築 | 黒川雅之 | 商業 | 21.4(24.3) | 6 | 1 | 84.8 | 平面 | 横強調 | 袖 | 全体 | ○ | | タイル | ○ |
| 1979.3 | 1978 | 金田中 | 新築 | 杉山隆 | 商業 | 14.6 | 3 | 1 | 571.7 | 平面 | 横強調 | 壁面 | 一部 | | | | |
| 1979.3 | 1978 | 香蘭園ビル | 新築 | 曾根幸一 | 事務 | | 7 | 1 | 601.1 | 複合 | 横強調 | 壁面 | 一部 | | | 大理石 | ○ |
| 1981.11 | 1981 | リクルート銀座ビル | 新築 | 入江三宅設計 | 事務 | 44.8 | 11 | 3 | 1285 | 平面 | 全面ガラス | 壁面 | 一部 | | | 大理石 | ○ |
| 1982.6 | 1982 | 銀座・数寄屋橋交差点 | 新築 | 山下和正 | 事務 | | 2 | | 27.6 | 複合 | 横強調 | 壁面 | 一部 | | | レンガ | ○ |
| 1982.8 | 1982 | 新橋演舞場・日産自動車新館 | 新築 | 日本設計 | 文化・事務 | 74.1 | 5 | 17 | 3608 | 平面 | 横強調 | 自立 | 一部 | | ○ | 大理石・カーペット | ○ |
| 1984.1 | 1983 | マガジンハウス | 新築 | 第一工房 | 事務 | 35.5 | 8 | 2 | 1164 | 複合 | 横強調 | 壁面 | 全体 | | | 御影石 | |
| 1985.1 | 1982 | 吉兆 東京 (第2期) | 新築 | 野村加根夫 | 商業 | 29.2 | 7 | 2 | | 平面 | その他 | 壁面 | 一部 | | | | |
| 1985.1 | 1985 | 銀座G&Sビル | 新築 | 東直彦 | 商業 | 25.3 | 7 | 1 | 94.6 | 平面 | 全面ガラス | 自立 | 一部 | | | 御影石 | |
| 1986.2 | 1985 | オフィスマシ | 新築 | 難波和彦 | 事務 | 28.6 | 8 | 1 | 122.4 | 平面 | 格子 | 袖 | 一部 | | | コンクリート | |
| 1987.6 | 1987 | 銀座テアトルビル | 新築 | 菊竹清訓 | 宿泊・商業・文化 | 57.75 | 12 | 2 | 2032 | 複合 | 格子 | 壁面 | 一部 | | | 大理石 | ○ |
| 1992.2 | 1991 | DNP銀座ビル | 新築 | 竹中工務店 | 文化・事務 | 31 | 6 | 1 | 219.7 | 平面 | 横強調 | 壁面 | 一部 | | | 花崗岩・大理石 | |
| 1992.2 | 1991 | 王子製紙本社ビル | 新築 | KAJIMA DESIGN | 事務・文化 | 81.4 | 15 | 4 | 1133 | 平面 | 横強調 | 壁面 | 一部 | | ○ | 花崗岩・大理石 | ○ |
| 1993.2 | 1992 | 銀座清月堂ビルディング | 新築 | 柿沼守利 | 文化・商業 | 24.3 | 6 | 2 | 160.3 | 平面 | 格子 | 壁面 | 全体 | | ○ | 堆積岩 | |
| 1994.5 | 1993 | 銀座DTビル | 新築 | 久米設計 | 事務 | 26.2 | 7 | 1 | 102.7 | 平面 | 全面ガラス | 自立 | 一部 | | | 花崗岩 | ○ |
| 1995.9 | 1995 | 新橋 松山 | 新築 | 板垣元彬 | 商業 | 11.1 | 2 | 1 | 411.9 | 平面 | その他 | 壁面 | 一部 | | | 御影石 | |
| 1999.8 | 1999 | カルティエ銀座ビル | 改修 | ジャン・ミシェル・ワイルモット | 商業 | 35.3 | 9 | 1 | 162.3 | 平面 | 横強調 | 壁面 | 全体 | | | | |
| 2000.12 | 2000 | 読売広告社 | 新築 | 日本設計 | 事務・商業 | 39.9 | 9 | 2 | 524.2 | 平面 | 全面ガラス | 壁面 | 全体 | ○ | | 花崗岩 | ○ |
| 2001.4 | 2000 | 東京銀座養生堂ビル | 新築 | R・ポフィル | 商業・文化 | 54.8 | 11 | 2 | 322.6 | 平面 | 横強調 | 壁面 | 一部 | ○ | | 花崗岩 | ○ |
| 2001.8 | 2001 | メゾン エルメス | 新築 | R・ピアノ | 商業・文化 | 47.9 | 11 | 3 | 481.2 | 平面 | 全面ガラス | 壁面 | 全体 | ○ | | プレコン・大理石 | |
| 2001.9 | 2001 | GINZA GREEN | 新築 | 竹中工務店 | 商業 | 55.9 | 12 | 2 | 288.8 | 平面 | 全面ガラス | 壁面 | 一部 | | | 花崗岩 | ○ |
| 2003.1 | 2002 | うおがし銘茶 銀座店 | 新築 | 野沢正光 | 商業 | 9.9 | 2 | | 43.6 | 平面 | 全面ガラス | 壁面 | 全体 | | | 石灰岩 | |
| 2004.1 | 2003 | 勝手通信ビル | 新築 | KAJIMA DESIGN | 事務 | 73 | 14 | 2 | 2027 | 平面 | 横強調 | 壁面 | 一部 | | ○ | コンクリート・花崗岩 | |
| 2004.1 | 2004 | ルイ・ヴィトン銀座並木通り店 | 改修 | 青木淳 | 商業 | 28.8 | 7 | 1 | 266.2 | 平面 | 格子 | 壁面 | 一部 | ○ | | ライムストーン | |
| 2004.11 | 2004 | 交詢ビルディング | 新築 | 清水建設 | 商業・事務 | 47.9 | 10 | 2 | 187.8 | 平面 | 全面ガラス | 壁面 | 一部 | ○ | | 御影石 | |
| 2004.12 | 2004 | ティオール銀座 | 改修 | 乾久美子・ティオール | 商業 | 31.6 | 8 | 2 | 264.8 | 平面 | その他 | 壁面 | 一部 | ○ | | | |
| 2005.2 | 2004 | CHANEL銀座ビル | 新築 | P.マリーノ | 商業・事務 | 55.9 | 10 | 1 | 622.1 | 平面 | 全面ガラス | 壁面 | 全体 | ○ | | | ○ |
| 2006.1 | 2005 | MIKIMOTO Ginza2 | 新築 | 伊東豊雄 | 商業 | 56.5 | 9 | 1 | 237.6 | 平面 | その他 | 壁面 | 一部 | | | 御影石 | |

面」「曲面」「凹凸」とそれらの要素が組み合わせられた「複合」の4種類に分類すると、平面型が39件、曲面型が2件、凹凸型が1件、複合型が6件と平面型が大半を占めている。また時代別の傾向に注目すると、1980年代までは平面型以外のタイプが存在していたものの、1990年代以降に竣工した建築物は全て平面型であることが明らかになった(表2)。

表2 年代別の壁面形状の推移

| | 平面型 | 曲面型 | 凹凸型 | 複合型 | 合計 |
|-------------|-----|-----|-----|-----|----|
| 1940's-50's | 6 | 0 | 1 | 1 | 8 |
| 1960's | 4 | 1 | 0 | 1 | 6 |
| 1970's | 7 | 1 | 0 | 1 | 9 |
| 1980's | 5 | 0 | 0 | 3 | 8 |
| 1990's | 6 | 0 | 0 | 0 | 6 |
| 2000's | 11 | 0 | 0 | 0 | 11 |
| 合計 | 39 | 2 | 1 | 6 | 48 |

またショーウィンドウを設置している建築物は16件あり、そのうち15件が商業ビル(用途混合の建築物を含む)であった。一方、1980年代-1990年代に竣工した建築物にはショーウィンドウを設置したケースが見られず(そのうち6件は商業ビル)、2000年代に入ると再度多くの商業ビルにショーウィンドウが設けられるようになる。そして商業ビル以外では唯一リッカー会館(1963年竣工)がオフィスビルであるにもかかわらずショーウィンドウを設置していた。

③ 前面空地の有無

前面空地を設けている建築物は7件に留まっている。これには地価の高さから床面積を最大限確保したいという意図が共通して見られ、さらに銀座は東京の他の商業地と比較して敷地割が細かく、各建築物の建築敷地が小さくなることから、前面空地を設けづらいという状況も存在すると考えられる。

1-2. 設計者の言説に見る銀座の地域イメージと空間デザイン手法

誌上に掲載された設計者の言説のうち、22件において銀座の地域イメージや既存都市環

境の評価に関する記述が見られた（表 3）。これらを概観すると、「外部者」の立場にある各設計者が銀座という地域のイメージをどのように捉え、そのイメージを空間に反映しようと試みたのかが理解できる。本稿ではその中でも銀座通り（中央通り）に建設された建築物に注目し、言説を詳細に考察する。銀座通りは銀座のメインストリートとして地位を古くから確立している場所であり、銀座の地域イメージがより強く認識されていると考えられる。

○ 資生堂会館（1962 年竣工 設計：谷口吉郎）

谷口吉郎は資生堂会館の設計に際して、資生堂という企業の「しにせ」としての性格を重視し、建築に用いる石材・木材・布は全て日本産のものを選定して、「建築材料の精選を心がけ、それを建築意匠の眼目とする」姿勢を示した。その上で、銀座通りに面するという立地条件を考慮し、「銀座の町角にたつ高層建築として、この店に新しい魅力を添えることも、重要な課題となった」と述べている。銀座通りに接する壁面の 1 階部分はガラス張りとし、歩道に沿って陳列台を設けたショーウィンドウとした¹⁾。コンセプトとして「とこのま」という概念を持ち出し、「この店の店頭を、一つの大きな『とこのま』に見立て、それを道行く人の共有の美的鑑賞の場としたい」「銀座の歩道には人があふれ、その群衆の目にはいつも美観に訴えている。（中略）資生堂の建物では、表通りに面した大きなショーウィンドーを、劇場のプロセニウムアーチのようにして、ガラスの向こうの店内を奥まで見通し得るようにした。正面に壁面には大きな壁掛けを垂れ、それも外部の歩道から直接見える」と述べている。谷口は現代都市が庶民の住宅から奪いつつある「浮世の小さな安息所」を銀座通りに面した場所に創出することで、歩道から視覚的に「とこのま」を体感できるよう構想した。

○ 三愛ドリームセンター（1963 年竣工 設計：日建設計）

日建設計の林昌二は、銀座を「広告やネオンなどなければいけないほど良いと考えている人たちにとっては、かたきのようなきらびやかな街」として認識し、このような場所はスーパーブロックによる開発の「公式論」が当てはまらず、「まだ誰も具体的な再開発の方法をもつことのできない都会の部分」と主張した。この計画は床面積の増加によって商業的利益を拡大させることを第一目的とするものではなく、「銀座にふたたび灯をともし」ことを最大の目的とした新たなアプローチであると説明されている²⁾。

そして林は銀座四丁目交差点に面した角地に円筒状の建築を設計したことについて、この建築が様々な商業地の中でも銀座でなければ建設され得ないものであり、「その土地でなければ成り立たず、しかもよそではうまくいかない土地の使われ方」がなされたと述べている。これは広告という側面のみならず、開発手法の観点からスーパーブロックという「近代的らしい方法」が銀座のような「古い街」の都市空間形成にはふさわしくないという認識によって生み出された発想であり、銀座という街が「明るく、能率的で、健康な他の多くの部分」とともに現在まで継承してきた「人々の生活にとって幾分かのくらい安らぎや、無意味な時間や、さらには晴れがましさ」は効率性を重視した開発手法を用いた場合には失われてしまうと主張されている。

○ サッポロ銀座ビル（1970 年竣工 設計：大成建設）

設計を担当した大成建設は、銀座四丁目交差点に面した敷地にビルを建設するにあたって、残りの角地に建つ和光・三越・三愛ドリームセンターの高さとのバランスから、800%の容積率制限が設けられている中でも、通常想定される高さへの上澄みが必要であると認識し、地上 9 階のフロアの上部に高さ 15.8m の広告塔を設置している。1 階と 2 階は自動車のシ

表3 『新建築』誌における銀座の地域イメージや既存都市環境に関する記述

| 竣工年 | 名称 | 設計 | 記述 |
|------|---------------|---------------|--|
| 1952 | 銀1ストア | 後藤一雄 | 露店的な一店一店の極小単一企業を集めた集団をそのまま均等に屋内に持ち込みたい |
| 1953 | 銀座御木本真珠店 | 戸田組 | 銀座という商業精華やかな地域に建つ商店建築として、次の諸点に設計上の基本方針が求められた。宝石の持つ品位を建物全体に表現する。自然光線の利用に依り、商品の正確な光沢を展示すること。既存売場で営業しながら施工する。工期の短縮化を図ること。敷地を最大限に利用する。 |
| 1962 | 資生堂会館 | 谷口吉郎 | 銀座の町角にたつ高層建築として、この店に新しい魅力を添えることも重要な課題となった。いろいろ考えたあげく、私はこの店の店頭を、一つの大きな「このま」に見立て、それを進行く人の共有の美的鑑賞の場としてみたいと考えた。 |
| 1963 | 三菱ドリームセンター | 日建設計(林昌二) | 銀座にふたたび灯をともしようという試み/売り上げによってはもうその繁栄の限界に達したこの地区が、直接の売り上げを目的とはしないこのような計画によって、その新しい開発の可能性をみずから発見できるか/(鏡張りの防火壁)周囲のネオンを極彩色に映し出す部分 |
| 1963 | リッカー会館 | 鹿島建設 | 銀座の町角にたつ高層建築として、この店に新しい魅力を添えることも重要な課題となった。いろいろ考えたあげく、私はこの店の店頭を、一つの大きな「このま」に見立て、それを進行く人の共有の美的鑑賞の場としてみたいと考えた。 |
| 1967 | 静岡新聞・静岡放送東京支社 | 丹下健三 | 東海道新幹線から、あるいは羽田からアプローチする場合には、都心へのひとつの玄関先といったシンボリックな性格の場所/数寄屋様式の町並みを考えると、そのスケールは、柱スパンやサッシ割、ショウ・ウィンドーなど、ヒューマンスケールが基調である。そんな町並みが隣までできているが、この敷地あたりでアーバン・スケールを受け止め、ヒューマン・スケールへと変換してやる必要がある |
| 1970 | サッポロ銀座ビル | 大成建設 | 建蔽率を100%とすれば、地下2階、地上6階程度の建物になるが、(銀座4丁目交差点を構成する)他の3つの建物との約合からしても、場所柄からしてももっと高い建物にしたいところである。それで構成的なおもしろさや大きさをだすために、容積率内で可能な限りの空間表面を試みた。 |
| 1975 | 資生堂ザ・ギンザ | 芦原義信 | 銀座通りに面して区道を挟んだ7丁目と8丁目の一角は、歴史的にみても、いわば資生堂地区のような場所であるから、街路と1階の空間をどのような形で一体のものにするかが計画のポイントとなった。/細長い空間を細長く平行に利用することが、かえってインテリア空間のボリュームをダイナミックに捉えられるのではないかと考えた結果、1階の商品を完全に俯瞰できるように道路面より1.8m下げ |
| 1977 | 銀座くノや | 黒川雅之 | 銀座という特殊な地域を持つ地理条件、現代の産業社会の中での経済・経営の平面、これらが相矛盾しながら均衡を保つ、生きた、ここだけの建築を求めて描かれた解である。/従来の市街地建築にありがちな街路から行き止まりの平面構成を避け、裏に通ずる通り抜けの平面構成をとっている。くノやが本質的に持つ空間の質の一つは店がすなわち家であることである。 |
| 1978 | 金田中 | 杉山隆 | 場所の将来を見極め、ここに建築する建物はただの料亭だけの建物ではなく、これから新築する計画のある新橋演舞場とのつながりを考えてこの地域の町づくりの一環として、劇と日本料理の迎賓館として日本人また世界の人々に喜んでいただけるような雰囲気のある日本建築を目標として設計しました。 |
| 1978 | 香鯉国ビル | 曾根幸一 | 銀座の裏通りにあり、周囲はすっかりと建ちあがっている。それだけに、ここに詰め込まれる建物が街並みにある種の作用と関係を持つのは当然である。敷地にひきをとり建物を高く構えて人の溜まりをつくるのもひとつの方法である。しかし、人の流れと接する部分を最大に確保するという要請が、隙間や広場のもつ魅力を凌駕する場合も少なくない。 |
| 1981 | リクルート銀座ビル | 入江三宅設計 | 敷地の選択および外観の決定については、近くを通る新幹線や国鉄諸線、高速道路、電通通りの車や新橋駅からの見え方などが重要なファクターとなった。 |
| 1982 | 銀座・数寄屋橋交差点 | 山下和正 | 外壁は明治の銀座レンガ街にちなみ、最新技術によるレンガパネルによるカーテンウォールを採用した。 |
| 1982 | 新橋演舞場・日産自動車新館 | 日本設計 | 総合設計制度を取り入れることにより、斜線制限を緩和し一般規制より多い天空率を確保しながら、地域に好ましい形態を求めた。地域冷暖房プラントスペースや公共性の高い広場に緑を計画し、旧演舞場が建てられていた時よりもはるかに良い環境が計画された。/今回の設計に際しては大正14年の旧演舞場設計の精神をデザインの原点とし、その良さを可能な限り継承することに努めた。 |
| 1987 | 銀座テアトルビル | 菊竹清訓 | 客室以外は全て銀座の店とし、日本最高の商業集積をもつ銀座と共存を計るうとする特異性を持っている。 |
| 1991 | 王子製紙本社ビル | KAJIMA DESIGN | 銀座という街の記憶の集積(コンテクスト)にตอบสนองして、これを顕在化させると同時に、企業と街の発展、いい換えれば、未来の記憶を予感させるオフィスビルを想い描いた。/外観は、王子製紙や銀座という街のもつ伝統性や発展性といったイメージに呼応して、やや古典的な表情の基調部に、垂直性の強い胴部と端正な影を落とす格子状の頂部をのせる構成とし、皮膜的なもの、退屈で均質的なデザインを避けた。 |
| 1993 | 銀座DTビル | 久米設計 | 銀座という街の舞台裏と化したこの狭隘な路地空間に、新しい都市的な閃きや刺激を与えることを意図して、いくつかの建築的仕掛けを基本的な外観構成要素として導入した。 |
| 2000 | 読売広告社 | 日本設計 | 銀座は世界的な商業都市で華と色気のある街である。中央通りはその中心で目抜き通りだが、デパート以外は間口の小さな建物ほとんどで、必ず袖看板がついている。手前側の通りに沿って街並みを見ると看板がびっしり並んで見えるだけで、車道側に遠くまでみても看板と建物のファサードの比が1:1に見える程度である。このような街並みを背景とし、その雰囲気と相対的にマス構成することで建築を際立たせるために、外観はシンプルで透明な表現とした。/賑わいの絶えない中央通りにあるうえに、それだけでなく堅く活気の乏しいオフィスビルの新しい行まい方、街に賑わいを与えることの重要性を考え、クライアントは積極的に1.2階をテナントに提供した。 |
| 2000 | 東京銀座資生堂ビル | R.ポフィ | 銀座8丁目という具体的な敷地と共に、資生堂、銀座、時代、人間という4つの場の力が重なるフィールドを「もうひとつの敷地」ととらえ、その歴史と可能性を創造的かつ戦略的に解析したうえで「条件」そのものを構築するところから始めた。/設計作業中に導入された機能更新促進型の規制緩和の第一号に本件が適用されたことで、より重要性を増すこととなった。 |
| 2001 | GINZA GREEN | 竹中工務店 | 銀座の風格を示す秩序ある正方形グリッドフレームのガラスカーテンウォールとハイドロテクト・タイル貼りの壁面で校正された。 |
| 2004 | 交詢ビルディング | 清水建設 | 設計に際し、築70年を経た交詢ビルを観察し、輝くオーセンシティを探し求めた。その結果、この建物を成立させている当時のモダニズムの母体上の無数の記号(パーツ)を読み取り、再構築することとした。 |
| 2004 | CHANEL銀座ビル | P.マリノ | シャネルは銀座を拠点とすべきだという強い信念がありました。しかも中央通りに面することにこだわったのです。(中略)中央通り、マロニエ通り、ガス灯通りという3つの街路に面し、街に対して自らのコンセプトがさまざまに表現し得ると期待したわけです。それと同時に、この街に対し本物のビルをつくらなければという大きな責任も抱いました。 |

ョールームとされ、銀座通りと晴海通りに接する壁面がガラス張りにされたほか、銀座通りの歩道に面したアルコーブに地下鉄銀座駅の昇降口を設置し、連続した歩行者空間を創出している。このアルコーブの床面には銀座通り歩道の舗装と同じく御影石が利用され、歩道との一体性を創出する意図が表現されている³⁾。

○ 銀座くノや (1977年竣工 設計: 黒川雅之)

黒川雅之は江戸時代から続く和装小物店である「銀座くノや」の店舗改築に際して、施主から「継ぎ足し、継ぎ足し年月をかけてつくられたような建築にしたい」「新しい店であると同時に、今までの店と同じであるように」「できる限り低く見える建築にしたい」「街路から帳場の大胆が見え“こんにちは”と声をかけられるような店でありたい」との要望を受け、「銀座という特殊な地域がもつ地理条件、現代の産業社会の中での経済・経営の平面、これらが相矛盾しながら均衡を保つ、生きた、ここだけの建築を求めて描かれた解」として設計を行ったと述べている⁴⁾。銀座通り沿道の土地に多く見られる狭い間口による空間構成の中

で、黒川は町家における「通り庭」の機能を持つ通り抜け空間を設け、「街路を引き込む」という意図を示した。これは「くのやが本質的に持つ空間の質の一つは、店がすなわち家である」という印象に基づいて構想されたものであり、単なる業務空間ではなく「都市あるいは家の持つ空間の質を忍び込ませなくてはならない」という意識のもとに設計された。

2. 開発主体によって見出されてきた地域イメージと空間デザイン手法

銀座通連合会の定時総会や常務理事会の議事録といった内部資料や読売新聞・朝日新聞・毎日新聞のデジタルアーカイブによる新聞記事から、地元主体である銀座通連合会の戦後における地域イメージの形成とそれに関連する空間デザイン手法について整理を行った。

2-1. 戦災復興期

1945年12月、空襲で大きな被害を受けた銀座の復興計画として、連合会は独自の復興計画の中で建物高さの最低限度を指定する提案を行い、通りを構成する建築物に一定の統一感をもたらす必要性を主張した⁵⁾。そして現実的な取り組みとしては銀座に本社を置く大倉土木（現大成建設）に銀座通り一帯に木造の仮店舗の建設を依頼し、ファサードにショーウィンドウと商品のイラストを描いた看板を設けることを定めた。当時の連合会はショーウィンドウを含む店頭装飾と店内照明の指導を業務の一つとしており、ショーウィンドウを重要な景観要素として認識していたことが理解できる。

2-2. 高度経済成長期

1957年、連合会は将来の銀座の空間デザインに関して懸賞論文の募集を行った。これには273点の応募があり、都市社会学者・磯村英一や建築家・谷口吉郎ら9名の審査員によって入選案が選出された。そして翌年、それらの入選案を磯村が総合的に取りまとめたものが銀座通連合会の運動方針として採択された⁶⁾。その基本方針は「都電の廃止と電線の地中化による街路空間の整理」「建物の高さ統一と共同建築の建設」「銀座全体を一つのショーウィンドウ的構造に」というものであり、戦災復興期からの問題意識を継承している。

1960年代には銀座通りの道路空間整備に向けた運動に取り組み、建設省国道事務所に車道を走行する路面電車の廃止と、線路の敷石に利用されている御影石を歩道の舗装に転用することを提案し実現させている。その際、戦前から植えられてきたヤナギの街路樹を撤去し、シャリンバイに変更する決断をしているが、これはヤナギが慢性的な生長不良に陥っていたという背景に加え、ヤナギという樹種がもつ雰囲気が、近代建築が建ち並ぶようになった銀座通りにふさわしくなくなったと判断されたことが影響していた⁷⁾。

2-3. 1970年代以降

1970年代には、戦後になって銀座に急増した銀行に対して働きかけを行うようになった。1972年、連合会は全国銀行協会連合会に対して銀座通りにおけるこれ以上の新規出店を見送ることを求めた。申入書には「既存の銀行については、将来あらゆる機会に1階部分を商店等に開放し、死角化防止を検討されたい」「繁華街銀座の姿を地元との共存共栄の線に沿って維持されるよう御検討いただきたい」という要求も記された⁸⁾。当時の銀座通りには金融機関が14店舗立地しており、店舗が15時に閉店してしまうことやファサードが閉鎖的で歩道に対して開かれていないことが問題視された。その後、出店を計画していた太陽銀行と協議を進め、新店舗に関して「ショーウィンドウに地元取引先の商品を陳列する」「夜間にも照明を点灯させる」などの条件で合意に至った。

3. 既存ストックを活用した都市環境デザインの実践

戦後の銀座で建設された建築物の空間的特徴や設計主体・地元主体が見出してきた地域イメージを踏まえ、銀座における既存建築物を活用した空間デザインの実践に取り組んだ。HULIC株式会社と小林・楨デザインワークショップ(KMDW)と連携し、HULICが所有する土地に、KMDWと共同で設計・施工を行った。2023年7月12日～7月30日に、HULIC銀座7丁目昭和通りビルにて社会実験として実施し、障がい者、高齢者、バギーを持つ家族など、多様な方が利用できるユニバーサルスペースを合板によるモックアップとして制作した。当ビルは1962年竣工の賃貸事務所であり、2023年中の取り壊しが決定していることから空きビルとなっていた。上記の調査から、銀座においては前面空地を設けている建築物は少なく、地元の認識としても、歴史的に建築物の壁面ラインが揃った街並みに対して価値を見出す向きが強いが、当ビルには壁面をセットバックさせ、前面空地を駐車場として利用していたため、このスペースを利用して周辺の建築物との一体感を生み出す空間構成を施した。今回設けた設備はバリアフリートイレ・授乳室・ウォーターサーバー・wi-fi レンタルサービス・休憩スペース・電動車椅子レンタルサービスであり、期間中339名の利用が見られたほか、銀座通連合会や障がい者団体などの関係者を招いたワークショップも実施した。

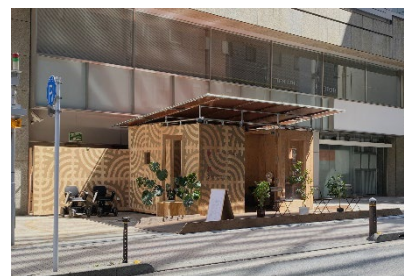


図1 社会実験の様子

4. むすび

本研究では開発主体と地元主体が形成してきた実践の展開を整理することで、双方が互いに影響し合いながら地域イメージを形成し、そのイメージが空間デザインに反映されてきたことが明らかになった。特に道路に面した建築物の壁面部分や外構に関して強い特徴が見られ、ショーウィンドウの設置や壁面ラインの統一などの点については地元主体が認識する地域イメージを反映させる結果になることが多かった。また外構の舗装についても地元主体の運動によって実施された歩道舗装との一体感を生み出すことが企図された事例が多く見られた。実践としての社会実験では、地元で醸成されてきた地域イメージとは異なる空間的特徴を有する建築物において、既存空間の活用という形で空間デザインを実現できることを示した。既存空地の活用については指定容積率や附置義務駐車場との兼ね合いが強く、課題も多く見られるが、今回明らかにされた地域イメージの空間化手法の蓄積は、今後の空間デザインにおいても多くの知見をもたらすものであると考えられる。

参考文献

- 1) 谷口吉郎(1962)「店の身だしなみ」新建築 37(11) 88
- 2) 日建設計工務(1963)「銀座に建つ光の円筒ビル 三愛ドリームセンター」新建築 38(3) 128-132
- 3) 大成建設(1970)「サッポロ銀座ビル」新建築 45(11) 255-260
- 4) 黒川雅之(1978)「くのやの建築」新建築 53(3) 179-180
- 5) 毎日新聞 1945年12月12日朝刊
- 6) 読売新聞 1958年6月7日朝刊
- 7) 読売新聞 1968年2月9日朝刊
- 8) 銀座通連合会(1972)「会員銀行申入れご報告とお願い」
- 9) 銀座通連合会(2019)『銀座通連合会 100年 次の、100年へ。次の、憧れへ。』出版文化社

(発表論文)

宮下貴裕(2023)「東京・銀座における附置義務駐車場地域ルールの動向と都市環境形成への影響に関する一考察」日本建築学会技術報告集 30(74) pp.393-398